

捨頭

若林伯耆守、三間柄ノ鍵穗ノ長サ三尺餘ナルニ、シホ頸ニ手引付タリケルヲ輕々ト提ゲ、一千餘騎、慕直ニ衝テカ、ル間、眞先ニ進タル青景衝立ラレテ引ノケバ、略

〔増補下學集上ニ〕捨頭

〔陰德太平記七〕雲州佐陀城沒落事

今岡彌五郎略中 所々ノ合戰ニ、分捕高名、驚衆拔群事幾度ト云コトヲ不知、中ニモ比類ナカリシ

ハ、因州ニ於テ敵五人切テカ、リシヲ四人切伏、今一人ト組テ伏、押テ頸ヲ搔ケルニ、五人ト切合

タル故ニヤ、刀ノ刃散々ニ打折ヌ、打刀ヲ搜リケルニ、組合間ニ拔テ落タリケル間、彼鋸ノ如ナル

刀ニテ、頸半分ハ摩切タリケレ共、更ニ不落ケレバ、足ニテ踏付、頸ヲ珍切テ提ゲ來リヌ、子テ頸ナ

ド云事ハ、昔物語語ナドニコソ聞ツレ、正敷目前ニ見ル事ノ不思議サヨト、諸人消膽絶倒シヌ、

猪頸

〔増補下學集上ニ〕猪頸

〔言書字考節用集五〕短頂 猪頸 和俗

抛頭

〔陰德太平記五十六〕上月合戰之事

熊谷信直ハ、周防富田ノ若山ニ在、杉原盛重ハ、爰許ニアリ、此外ニハ誰カ自身ノ勇ヲ閣テ、味方ノ

合戰勝利ノ全キ謀ヲ成者アラント思ケル所ニ、一隊ノ勢三百許ニテ、上ナル山ヘ馳上ル、誰ナル

ラント見レバ、眞先ニ進タル武者抛頭也、スハ天野紀伊守隆重ナルラント思フニ、如案隆重備ヲ

堅クシテ味方ノ機ヲ助ケル、

〔書言字考節用集五〕飛頭 出續博物志、西陽雜、飛頭 猿 太平廣記、轆轤頭 代

〔當世武野俗談〕本石町鐘撞の娘轆轤首

世に不祥の名を取る事、古今ためし有つれ、草にも、粟のみ喰て、穀の類を喰ざる娘有と書り、今本石町の鐘撞の娘生甚美敷、され共幼少の時分、世間にて云けるは、此娘はるくる首なりと、

轆轤頭